

# 学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 臨床医学系講座 脳神経外科学分野	氏 名	中塚 慶徳
審 査 委 員	主 査 吉田 利通 副 査 稲垣 昌樹 副 査 須藤 啓広		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Preventive effects of cilostazol against the development of shunt-dependent hydrocephalus after subarachnoid hemorrhage</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>くも膜下出血後の遅発性水頭症は、マトリセル蛋白であるテネイシン C の影響を受け発生している可能性がある。本研究は、選択的ホスホジエステラーゼ 3 阻害薬であるシロスタゾールがテネイシン C の誘導を抑制することにより水頭症の発生を抑制するかを検討することを目的とした。</p> <p>まず、三重大学医学部附属病院での Fisher Group 3 のくも膜下出血症例 87 例を後ろ向きに検討し、シロスタゾール使用の有無と水頭症の発生に関連があるかについての検討を行った。シャント依存性水頭症は 18 例(20.6%)であったが、シロスタゾールなしでは 36 例中 12 例(33.3%)、100-200mg では 39 例中 5 例(12.8%)、300mg では 12 例中 1 例(8.3%)と、シロスタゾール投与によりシャント依存性水頭症の発生が有意に減少することが明らかになった。多変量解析においても、シロスタゾール投与群は有意にシャント依存性水頭症の発生が少ないことが示された(オッズ比 0.23, 95%信頼区間 0.05–0.93; <math>p=0.038</math>)。また、シロスタゾール投与により、血清テネイシン C 濃度の抑制がみられるか否かに関し、多施設共同前向き観察研究 38 例のくも膜下出血症例での採血データを用いて検討した。シロスタゾール投与なし群と比較し、シロスタゾール 300mg 投与群では有意にテネイシン C 濃度が低いことが示された。</p> <p>以上のように、本論文はシロスタゾール投与がくも膜下出血後の遅発性水頭症の発生を抑制することと、特に 300mg 投与がくも膜下出血後のテネイシン C の発現を抑制することがその機序である可能性を初めて示した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものとして認めた。</p> <p>Journal of Neurosurgery Published online: August 5, 2016 DOI: 10.3171/2016.5.JNS152907</p>			

Yoshinari Nakatsuka, MD, Fumihiro Kawakita, MD, Ryuta Yasuda, MD, PhD, Yasuyuki Umeda, MD, PhD, Naoki Toma, MD, PhD, Hiroshi Sakaida, MD, PhD, and Hidenori Suzuki, MD, PhD, on behalf of the Prospective Registry for Searching Mediators of Neurovascular Events After Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage (pSEED) Group